

第5回 中心市街地のグランドデザインを考える分科会記録

1. 日 時 平成21年9月18日(金) 19:10~20:15
2. 場 所 小田原箱根商工会議所 4階 相談室
3. 経 過

佐谷マネージャーより、前回の分科会の内容について出席者へ確認がされた。

今回は小田原市で「住民自治基本条例策定委員会」が開催されている関係で出席者が少ないため、出席者のみでフリートークを行った。次回以降に各エリアの特徴づけの作業を進展させる。

主な意見

【グランドデザインについて】

- ・グランドデザインを描き、それをコンセンサスする。
- ・山王はお城から1000m。駅前だとお城が見える。1000mのラインで整備したらみんなが望む形になるのではないか。
- ・現在の広域交流拠点としては、小田原駅東口が商業を中心とした広域交流拠点。もう一つがお城という文化的な拠点。あとは、将来に向けた課題として、低炭素社会や高齢化・少子化社会、食糧社会、ストレスフリー社会・・・そういったものを考えて街並みをもう一度作らなくてはいけない。
- ・たとえば、1000m範囲で街をどう区分けしていくのかについてこれからやっていかないといけない。
- ・エリアを開発するのは難しいが、点を打ちながら線にし、最終的に面にできれば。
- ・土壌汚染の問題が解決すれば旭丘高校をユアサ跡地に持っていても良いのでは。
- ・皆のコンセンサスを得るには、旧小田原市街地の範囲で検討をした方が分かりやすい。

【各エリアの特色について】

○中町・寿町付近について

- ・金沢の文化村(昔の繊維産業のエリア)のように、職人学校のようなものが山王川と酒匂川の間できれば活発化するのでは。
- ・寿町・中町エリアは職人街にする住宅街にするかのどちらか(何件か入っていて、住宅街でもそのようなものがあれば魅力になる)
- ・寿町・中町エリアに、柏木鋳物の他に街かど博物館が点在もしくは集積していれば、人が周遊しやすい。(現在は、街かど博物館が偏って点在してしまっている。)
- ・相田酒造さんの酒蔵が中町にあるが、そういう声が上がれば。(土地についても賃貸なのか売却なのかも不明)
- ・寿町・中町辺りの木工業は下請けの下請け(特別な技術がない)で転業もしくは世代交代等もあり廃業していったので住宅化せざるを得ない。しかしそういった中でIT企業が出てきている。山王川周辺をSOHOの職人町のようにしていったらどうか。

○国際通り・一丁田・青物町エリア

- ・住宅でも、(一例として)国際通りや一丁田・青物町の方は低層で緑もあるといった形の使い分けがあっても良いのでは(採算性は考えてはいない)
- ・何もコンセンサスが無いので空き地にワンルームマンションが多く建ってしまう。駅からの距離を考えてもかなり良い居住地となる。おしゃれなティールームや洋装店があったり、みんながそぞろ歩くような・・・そういった可能性のある地域。駅前に出店が難しいがショップをやりたいという若者が入ってくれば(現状は入ってきたい環境が整っていない)
- ・保健所跡地について住宅街の中に文化の香りがあるような
- ・図書館をあそこに持っていても良いのでは。公共施設であれば、若干の緩和性がある

○その他

- ・(佐谷アドバイザー個人案として)小田原駅より1000m範囲を10数か所にテーマ別に分けた一例を紹介した(例：国際通りより外側＝居住エリア、城山＝文教エリア等)
- ・小田原市は広いが、今中心市街地としてやっているが、周りはどうなのか。
- ・中心市街地は小田原人のための中心市街地なのか、それとも観光客のための交流地点なのか、城のある街としての半径1000mのコンパクトシティだったら、ICの必要性がある。荻窪ICを結ぶことを考えると広域性がでてくる。
- ・総合計画の見直しをしているが、小田原駅というのは小田原の拠点だけではなく県西・富士箱根伊豆の交流拠点・中継にしている。その点で道路も然りなのでは。
- ・広域交流拠点ということで、それだけの内容があるかどうか・・・
- ・お城があって自然・・・で一つのものとして外国人は地域を捉えるもの。自然の流れの中で大小田原市が実現する拠点としての小田原になれば

【用途地域・条例について】

- ・用途地域は5年ごとに見直しができるが、その権限は県にある。
- ・規制を設けるのは簡単ではない。規制を設けるとしたら、景観条例ぐらいしかない。しかし、条例は法律を超えることはできない弱みがある。
- ・県の中における小田原の役割があって「だからこういう風にします」ということにしないと。県の方向性と整合性がないと実現が難しいことになってしまう。

【交通・回遊性について】

- ・回遊バスのようなものが出来れば。
- ・酒匂平野の方では、企業懇談会を作っており、同方向においては通勤用のバスを共同で運行している。

【農業の振興・新産業誘致について】

- ・南足柄市が農業と花でいくという方針を出しているが、小田原こそ農業をやるべき。(中

心市街地の周りで)小田原市で自給率何パーセントといった目標を立てるべき。小田原は「自然が売り」であり工業が売りではない。もし、工業なのであれば低炭素社会に対応する新エネルギーの工業や産業をやっていく。そのために優遇税制などをして、あるエリアでやるのはどうか(全体ではなく)。定住人口の増加にも繋がる。

- ・県の方でインベスト神奈川をやっていて、企業の誘致をやっていて、研究労働者の人たちが横浜を住める場所としてみていない。そういう人たちは酒匂平野のほうが良いというモチベーションがある。まさにインベスト神奈川の最も先端的なもの。高給外国労働者(研究者)が住めるような住宅を考えるようなやり方もある。
- ・貸し農地のようなことをやって、農業の町小田原でいけば良いのと思う。
- ・「農の会」の活動はユニーク。そこを応援したらどうか。
- ・朝どれふぁ～みは朝9時からだが、開店前にすでに人が並んでいる。各地の道の駅などに行くと野菜や食べるものに目が行く。例えば小田原に朝どれがあって、また違う地点にそういうものがあれば「小田原の野菜を買って帰ろう」になる。
- ・それを知らせるのに早いのは地下街になるのでは
- ・朝どれは農産物をそのまま販売しているが、例えばそのほかにも1次加工したもの、2次加工したもの・・・小田原特産の食材をして、地下街の特選市場でやっていても良いのでは。
- ・魚は漁獲量に変動があるが、農業は安定している。
- ・以前の検討委員会ではそれをやりたいと思い、検討を重ねた。(松本氏も同じ意向)。そういうのをやるには、例えば農業者も出資してまちづくり会社として運営できたら。
- ・現在、平井書店さんやマツシタ靴店で野菜の置き売りをやっていて、町歩きに楽しみをもたらしている。

【その他】

- ・学校の空いている教室を有効利用できれば
- ・市民ホールに和事の芸能会館のようなものをあそこに持っていったらどうなのだろう。ただし、広さからバスの発着が出来るかどうか。

最後に、次回の分科会開催日の確認をした。次回は10月6日(火)。

<当日出席者> *順不同・敬称略
岩瀬照子、小野意雄、永峰康次

以上